

(問 11) 除排雪の担当業者選定基準について

昨年の長島地区の除排雪が非常に悪い状態だったので、今年の工区担当業者には、その様な事にならない様、お願いしたい。

また、今年の除排雪の担当業者については、いつ頃決定されるのかとその、選定基準はどうなっているのか。

《回答》

昨年の長島地区担当業者の除排雪作業状態について苦情があがりましたが、同じ事にならない様十分注意をはらってパトロールを強化し、集中除排雪の改善に努めて行きます。

除排雪の担当業者また設定基準については、平成 22 年昨冬については、12 月から 1 月初めにかけては、暖冬小雪という天気でしたが、1 月 10 日辺りから連日の積雪、毎日の冬日という事で、雪かきをしても追いつかない状態が実状でありました。

昨年の冬の降雪量が多かった日は 1 月 23 日の 130cm でした。

また、昨冬の雪の総降雪量は 6m39cm で、これがひと冬で降ったこととなります。その 49%が 1 月のひと月に降雪しました。

さらに 1 月の豪雪の時に豪雪対策本部を設定し、パトロールを強化したり、雪相談窓口の電話の台数やオペレーターを増やしたりして対応致しましたが、昨年 700 件もの苦情の電話、チャットは 11,009 件、単純に 2 倍以上のご意見・ご要望を電話または直接、市役所に来所して受けていました。

除排雪の経緯につきましては、先ほど言った 639cm という総降雪量を申しましたが、この総降雪量と除排雪費は単純に比例します。

昨冬については、21 億という除排雪の予算が計上されております。

これは生きる皆様の生活道路や市の幹線道路の除排雪費だけではなく、例えば市内の歩道の融雪の燃料代、山間部に散布しております塩化ナトリウム等の融雪剤、すべての雪に関する事を含んでの 21 億円です。

最近の 9 年間でいいますと、平成 16 年の合併の前の年、災害自衛隊出動の年ですが、この平成 16 年には経費として 30 億、雪の量としては 10,143cm。10m も降りました。ここ最近 10 年では、最も雪が多かった年です。

逆にもっとも少なかった年というのは、平成 18 年の合併の次の年で、この年には経費として 11 億、雪の量としては 335cm。単純に量だけで比較しますと昨年の半分という事になります。

雪については、雪の降る量、毎年少なければいいと思いますが予測しうるもので、予算につきましては、過去 10 年間の予算追加金額を参考に、本年度

は 18 億円以上の予算を計上しています。

また、3 月 31 日をもって本年度の豪雪総合対策本部は解除となります。

その後、除排雪業者に来所してもらいシーズン中の評価や苦情等を伝えて来るシーズンには改善していってもらう様にしています。

翌年度 5 月には次の年の除排雪に向けての準備も進めており、その際に除排雪作業のやる気、自社の所有するダンプの台数、自社所有でなくとも準備が出来る台数。これを全部聞き取りし、すべて管理して今年度の排雪の体制というのを構築しています。

幸い 10 月 31 日を持って、青森市内すべてに業者さんを据え付ける事が出来ました。中にはオペレーターの高齢化、また、夏場の公共工事の減少という事から業者事態の体力が落ちている事で、今年から撤退したい。という業者さんも中にはありました。もちろんそういう所についても、穴が空かないように経験を積んで十分やっていける業者さんを厳選して配置します。

このようにして市の除排雪体制は、5 月からスタートして毎年の冬の準備をしています。

今後は、少しでも「昨冬よりは良かった」と言われるような除排雪の本部を目指して頑張っていきたいと思えます。